

2020. 2. 16 第三主日礼拝（交歓講壇：岐阜教会にて）

マルコ 1:9-15 「今日を生きる力」

## 聖書

- 9 そのころ、イエスはガリラヤのナザレからやって来て、ヨルダン川でヨハネからバプテスマを受けられた。
- 10 イエスは、水の中から上がるとすぐに、天が裂けて御霊が鳩のようにご自分に降って来るのをご覧になった。
- 11 すると天から声がした。「あなたはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ。」
- 12 それからすぐに、御霊はイエスを荒野に追いやられた。
- 13 イエスは四十日間荒野にいて、サタンの試みを受けられた。イエスは野の獣とともにおられ、御使いたちが仕えていた。
- 14 ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べ伝えて言われた。
- 15 「時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」

## はじめに

皆さん、先週はどのようなことばをたくさん耳にされましたか。嬉しくなることばですか。励まされることばですか。または、その逆のことばですか。私たちはたくさんのことばを耳にして生きています。どのようなことばを耳にするかはとても重要です。否定的なことばをたくさん浴びた人と肯定的なことばをたくさん浴びた人では、自分自身に対するイメージが違うそうです。当然後者の方がセルフイメージが高いですね。今日の礼拝ではイエスさまの公生涯の始まりに天から届けられた「あなたはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ。」（11 節）ということばに思いを向けます。このことばは人を励まし喜ばせる力を持っています。それを分かち合いたいと思います。

## 1. イエスさまの洗礼

イエスさまはおよそ 30 歳になられたとき、公生涯をスタートされました。公生涯とは、ご自分が地上に来られた目的を果たすための生涯を指し、ゴールは十字架にありました。イエスさまは十字架で私たちの罪を背負い、死ぬために生まれてくださいました。その目的を果たすための出発としてバプテスマのヨハネから洗礼を受けられたのです。

なぜイエスさまは洗礼を受けられたのでしょうか。もしイエスさまが罪のないお方だとすれば、罪の赦しのためのバプテスマを受ける必要はなかったはずです。このときイエスさまが洗礼を受けられたのは、罪の赦しのためではなく、ご自分を罪人と同じ立場に置かれたという意味がありました。イザヤ 53: 12 にある「そむいた人たちとともに数えられた」というみことばのように、罪のないお方が罪人と同じようになられ、罪人の行列に加えられたことを表しているのです。まことの神がまことの人となって、私たちの罪と痛みを背負う生涯を始めてくださったのです。

イエスさまが洗礼を受け水から上がられると、天から聖霊がくだり、同時に声がしました。「あなたはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ。」(11 節)。聖霊の付与はイエスさまに力と権威を与えるものですが、この天からの声はどのような意味を持っているのでしょうか。この声は、イエスさまは父なる神さまの愛するひとり子であるという身分証明のことばです。誤解してはいけないのは、この声をもって、すなわち洗礼によってイエスさまは神の子になったのではありません。イエスさまは世の始まる前から、「父なる神」、「子なる神」、「聖霊なる神」の三位一体の神の第二人格を持った神ご自身です。父なる神さまに造られた被造物である“子”ではありません。この間違いに陥るとエホバの証人のような異端になるので注意しましょう。

## 2. 存在を喜ぶ

「あなたはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ」というみことばをもう少し掘り下げてみよう。カトリック司祭のヘンリ・ナウエンは多数の著書を残していますが、代表的な「イエスの御名で」という本に対するコメントを紹介したいと思います。『イエスがサタンに打ち勝ったのは、御言葉によ

って対抗したからだ」と長いあいだ受け止めてきた。そして聖書を学び、御言葉に従うことの重要性を学んだ。しかしナウエンはその使命に加えて、イエスがバプテスマを受けたときに受けた御父からの声、「愛する子よ」という存在証明の呼びかけにこそ、誘惑を克服した源泉があることに私たちの目を開いた。それは父との分ち難い親しい愛の関係のことである。それこそが、イエスが何者であるかを語るものであり、荒野での誘惑だけでなく、その後の宣教を支え続けた最も不可欠な基盤だと示した。』

このコメント文からもわかるように「あなたはわたしの愛する子」とは、一人の存在を喜ぶ声です。私たちの社会ではものの値段はその価値によって決まります。役に立つものには高価な値段がつき、役に立たないものは安く売られます。この考え方を人間に当てはめると、能力のある人やお金を稼ぐ人は価値が高く、そうでない人は価値が低いということになります。そのような環境に置かれた人間はいつも競争というストレスに囲まれていて休まる場がないのです。また、多くのご高齢の方々が寂しいということばをよく仰います。色々なことができなくなって、自分の存在が忘れられてしまうような感覚を持っておられる方がたくさんいます。一人の人の存在が希薄な社会だからこそ、「あなたはわたしの愛する子」という言葉が必要なのではないのでしょうか。能力や成果によって測られる声ではなく、その人の存在そのものを喜ぶ声が必要なのです。存在を喜ぶ声は、辛い状況や試練の中を越えさせる力となり、目的や使命を果たす力となります。イエスさまが40日間荒野でサタンの誘惑にあわれた時、みことばによる勝利とともに、父なる神さまの愛の声が誘惑に勝たせた力となっているのです（13節）。そして福音宣教への一歩を踏み出す力となっているのです（14, 15節）。人は皆「あなたはわたしの愛する子」という存在証明のことばを求めており、そのことばがあればどんな状況の中でも生きていけるのです。

### 3. 生涯を支えることば

「あなたはわたしの愛する子」ということばは、父なる神さまと子なるイエスさまとの永遠の愛の関係を示していると同時に、イエスさまが地上で救

い主としての道を歩むための支えとなっています。私たちは誰かから必要とされている、誰かから愛されていると思うと生きる力が湧いてきます。逆に誰からも必要とされていない、愛されていないと感じると生きることが辛くなってきます。ヘンリ・ナウエンは『愛されている者の生活』という本の中で、愛されて生きることの大切さを次のように言っています。「私たちの人生において最大の罠は、成功でも、名声でも、権力でもなく、自己を否定することです。成功や名声や権力は、実際大きな誘惑をもたらします。しかし、それらに人が魅了されるのは、自己を否定するという、もっと大きな誘惑から出ていることが多いのです。「あなたには価値がない」「愛されるに値しない」と呼びかける声を私たちが信じるようになると、次は成功、名声、権力を求めることこそが、その問題を解決する魅力的な手段のように感じられます。いずれにせよ、私たちが陥れる本当の罠は、自分を否定することです。」

自分は愛されていないと感じると、その声を打ち消すために、すなわち私は愛されるに値する人間であることを自らの手で証明するために成功、名声、権力を求めるのです。そうして勝ち取った成功、名声、権力があれば、人は私を愛してくれると思っていますのです。本当にそうでしょうか。いいえ、そうではありません。人はあなたを愛しているのではなく、あなたの成功、名声、権力を愛しているのです。その証拠に今まで持っていた成功、名声、権力を失うと、途端に人はその人から去っていきます。私たちが本当に必要としている声は、どんなことがあっても、どんな状況に陥っても、無条件で「あなたはわたしの愛する子」ということばです。「わたしはあなたを愛している」ということばがあれば人は生きていけます。この声がイエスさまの壮絶な十字架の道を支えたのです。自分で自分を否定し、周りからも否定的なことばを浴びせられてきた私たちにとって、今一番必要なことばは、「あなたはわたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ」というイエスさまの声です。今日イエスさまは私たちにそのことばをかけてくださっています。

#### 4. 今日を生きる力

ナウエンはイエスさまが荒野であった誘惑を三つにまとめています。「能力を

示すこと」「人の歓心を買うこと」「権力を求めること」に対する誘惑です。これは神の子であるイエスさまのみに帰せられる経験なのでしょう。そうではありません。私たちは自分の能力を示したい、人からほめられたい、人を従わせることができる権力が欲しいと願う者です。だから無能だと言われれば腹も立つし落ち込む。誰からも認められないといじける。自分の主張が通らないと怒る。これらはイエスさまが経験された3つの誘惑が私たちの身近な所にある証拠です。さらに、福音を伝えることについてはどうでしょうか。それはイエスさまが行うことであって、あるいは牧者や教職者が行うことであって、信徒には関係のないことなのでしょう。そうではありません。マルコの福音書の結びのことばは「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい」(16:15)とあります。すべてのクリスチャンに福音を届ける務めが与えられているのです。イエスさまがそうであったように、私たちも誘惑に勝ち、福音を携えて力強く立ち上がるために、「あなたはわたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ」という声がいつも心の中に響いていなければならないのです。この声を聞き続けることで、問題や課題を越えて行けるのです。

私たちはその声を聞くだけでなく、人に届ける務めも与えられています。愛されていることばを受け取った者は、愛することばを発する務めも与えられているのです。周りの方々に、「あなたもイエスさまに愛されているのですよ。だから大丈夫です。いっしょに生きて行きましょう。」と声をかけて歩んで行きましょう。

## 結び

あなたが今日を生きる力はどこにあるのでしょうか。「あなたはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ」という声にあることを知っている人は幸いです。その声はみことば(聖書)を通して届けられますから、神の愛の声を聞くためにみことばに触れましょう。人は自分が受けたものしか返せません。受けてもいないのに、それを人に示すことはできないのです。だから、みことばを通してイエスさまから無限の愛をたくさんいただきましょう。イエス

さまからたくさん愛をいただいたら、その愛を少しでよいので人に示してみましよう。「あなたもイエスさまに愛されているのですよ。」と伝えてみましよう。このように愛し愛されていることを確かめる場が教会の交わりです。十字架によってイエスさまの愛を受けたクリスチャンの交わりがどんなに幸いなものなのか、それを味わう場が教会です。まずは教会の中で互いに愛し合いましよう。そして、愛のことばを教会の中だけでなく、教会の外に向かって発信して行きましよう。神さまの愛を発信できるのは、神さまの愛を経験したクリスチャンだけなのですから。